

み言葉は

いのちの言葉

ルカ 11, 20

神の国はあなたたちのところに来ているのだ。

キアラ・ルービックは、以前若者たちに、お互いの愛を生きましようと呼びかけ、相互愛さえあれば「キリストご自身が必ず私たちの間にいられます。全能のお方が私たちの味方ならどんな願いもかなうでしょう」と語りました。

イエスはいつも共におられる

イエスこそ、神の国そのものなのです

「私たちにできることはイエスが常に私たちの間におられるようにすること、そうすれば皆さんの相互愛、一致にひきつけられて、イエスご自身が皆さんと一緒にそれぞれの国で働かれます。」と語りました。

平和の種をまく

あらゆる場面で彼が光を投げ、道を照らし、支えて下さいます。

イエスこそが皆さんの力、心を燃やす方、皆さんの喜びとなるでしょう。

このイエスの存在は周りの世界に調和をもたらし、様々な分裂はなくなるでしょう。

偉大なことを目にするでしょう

必要なのは愛、皆さんの間の愛、地上のあちこちに蒔かれた愛です。人と人、グループや国同士の間に蒔かれた愛。

こうした愛が皆さんの手を借りて浸透し、あらゆる手段を用いて広がっていき、いずれ誰もが待ち望む『愛の文明』が現実のものとなりますように。

皆さんはそのために呼ばれています。

切り取って折ってみよう。



私たちの経験



いのちです

ジャンルイ(16歳)

神様の力

ジャンルイは、信仰がなく、クリスチャンだったけれど、家族のメンバーとは違って、神様の存在を信じていませんでした。

コートダジュールのマンという町で両親とは離れたところで、弟たちと生活していました。町が反乱軍に占拠されたとき、4人の男が家に押し入り、略奪し、ジャンルイが体力があるのをみて、連れて行こうとしました。

弟たちは、連れて行かないように頼みましたが、だめでした。家を出ていこうとした時、彼らのリーダーがうって変わって彼を逃すように決めました。

それから、姉に「できるだけ早く逃げるように。明日また戻ってくるだろうから。」と小さい声で言いました。そしてどうやって逃げるかを教えました。「何かわなだろうか？本当なのだろうか？」と話し合いました。

夜明けにお金も何もたずに、わずかな希望だけを抱いて出発しました。45キロの道のりを歩き始めました。両親の家の方向に行くトラックに乗せてもらうことができました。

行く道では、知らない人が彼らに寝る場所を与えてくれ、また食べる物もくれました。軍のいるところでも、国境でもだれも彼らを調べる者はいませんでした。そして家までたどり着きました。

お母さんがいいました。「大変な状況だったのに、神様の愛で包まれていたのね。」ジャンルイが、まず聞いたことは、どこに教会があるかでした。「お父さん、お父さんの神様は本当に強い方なんだね。」

私たちが似たような状況にであったことはない？